



芦安中学校だより

第 4 号

校長 大石 浩雄

2025. 6. 2

☆ボルダリング体験

5月20日(火)と22日(木)に全校生徒によるボルダリング体験を実施しました。この活動には全校登山に向けたトレーニングや意識づけという意味もありますが、自分が決めた課題(コース)に挑戦する体験を通して達成感、挑戦心といったことを実感する機会という意味もあります。

今回の活動は、活動した一人一人が挑戦しようという意欲を持って取り組むことができていました。また、実際に難易度を上げながらいろいろなコースに挑戦して登頂することができていました。自分自身の目標に向かい挑戦する良い活動になっていたと感じました。このようにできたのは、前向きな意識の生徒が互いに声をかけることができたことと、サポートをしてくれた芦安FCや葦崎白鳳会、南アルプス市岳心会、芦安駐在所のみなさん等の励ましやアドバイス・承認などがあったからだと思います。

地域の力を借りて実施した今回のボルダリング体験は、単なる運動体験の一つではなく、生徒が精神的に成長するための貴重な機会であったように思います。



まわりからの声に助けられながら
一生懸命挑戦しました

☆バドミントン県選手権大会

5月24日(土)にバドミントンの県選手権大会がありました。男女各2名の生徒が出場して、昨年10月の新人大会以降約半年間積み上げてきた練習の成果を確認しました。試合結果は男女各1名が2回戦へとコマを進め、残りの各1名は1回戦敗退となりました。競技ですから勝敗はありますが、こうした経験は大きな意味があったように思います。



部活動を通して学ぶことはたくさんあります。そこには競技の技術や体力の増強といったこともありますが、同時に目標に向けて困難を乗り越える力やあいさつや会場での態度等を含めた公共の場での礼儀やマナー、仲間と共によりよい活動をするために必要になる考え方とコミュニケーションを学ぶといったこともあります。今回の大会の結果を受けて、一人一人が自分の感じたことをもとに、次の大会に向けて残り約2か月間を全力で取り組み人として大きく成長してくれることに期待しています。



☆夜叉神峠自然パトロールと救急救命法講習会を実施しました

5月26日(月)の午前に夜叉神峠自然パトロールに行ってきました。夜叉神峠まで約1時間をかけて登り、登山道やその周辺のゴミ拾い、登山道入り口にある東屋の清掃などを行いました。下山の途中にすれ違った10名ほどのグループの方は、私たちが持っていたゴミの量を見て「こんなにゴミがあるんだ」と驚くとともに「ありがとうございます」という声をかけてくれました。

私たちがしていることは小さな活動かもしれませんが、将来のよりよい環境へとつながる地域貢献・社会貢献であると、生徒達には誇りに思ってもらいたいと思います。

同じ日の放課後の時間に、日本赤十字から講師に招き、救急救命



古い時代のゴミがたくさんありました



素早い対応が大切です

法の講習会を教職員と希望があった保護者を対象に実施しました。心肺蘇生法と AED の使い方を中心に約 1 時間行いました。芦安地区は市街地から離れていて救急車の到着に時間がかかります。無い事に越したことはないのですが、万一に備えしっかりと確認することができました。参加して下さった保護者の方もとても真剣に参加してくださっていました。ありがとうございました。

☆講師を招いた登山学習会①

5 月 27 日(火)の 5・6 校時に、全校登山に向けた取組の一環として、芦安 FC の清水准一さんを講師に招き学習会を行いました。今年度の全校登山は 7 年ぶりに仙丈ヶ岳に挑戦します。そこで仙丈ヶ岳の特徴的な地形(氷河地形)や多様な高山植物についてと美しい自然を記録する写真撮影の方法を教えていただきました。

今回の学習会の中で講師の先生が「登山をする中で感性を大切にしてほしい」ということを話していました。中学生



くらいの年代にとって感性を身につけるということは人格や人間性にとても大きな意味があると思います。登山を通して「苦しい」「疲れる」という経験をすることで困難を乗り越える力を身につけることも全校登山のねらいの一つですが、それだけでなく多様な自然環境や行動を共にする仲間等から「美しい」や「いいな」等と感ずることが出来る力を身につけさせたいということも大切なねらいなのです。

仙丈ヶ岳は「南アルプスの女王」と呼ばれ、優雅でのびやかな姿が魅力的と言われています。その中で美しい自然や素晴らしい仲間の存在に気づく感性を、登山を通して身につけてほしいと思います。

☆小中合同イングリッシュゲーム

5 月 29 日(木)の朝の時間を使って小中合同イングリッシュゲームが行われました。今回の活動内容は、中学生がホストとなって、小学生に英語を使ったゲームを楽しんでもらうというものでした。はじめは多少緊張もあったようですが、活動が進むにつれ自然と声が大きくなり、中学生から小学生に声をかける回数が増えていく様子が見られ



ました。小学生に楽しんでもらおうという気持ちが感じられる活動でした。

今年度の小中合同英語活動では、中学生が主体的に活動や企画に参加できることを目指しています。今回の活動の様子を見て、よいスタートができたのではないかと思います。



いました。今後の英語読み聞かせや国際交流集会でも中学生が活躍してくれることを期待したいと思います。

☆小中合同太鼓活動が始まりました

5 月 30 日(金)の 6 校時に今年度最初の小中合同太鼓活動を行いました。この活動は小学 4 年生～中学 3 年生までが一緒に練習を積み重ね、11 月の白峰祭で披露することを目指しています。

今回は太鼓を叩く練習ではなく、太鼓の歴史やその役割などを、動画やスライドを見ながら学んでいこうという内容でした。これは、今年度から始めた新しい内容で、児童生徒が主体的な活動をできるようにするための一つです。児童生

徒はとても集中して話を聞けていました。この話の中で出た「日本人の良さ」を身につけられるような活動になることを願っています。



☆英語検定がありました

5 月 30 日(金)の放課後の時間を使い、英語検定が実施されました。受検した生徒は、合格を目指して時間いっぱいまで頑張っていました。

芦安中学校の生徒は、年 1 回英語検定を無料で受けることができます。これは南アルプス市の補助金をいただいているからです。生徒にとって、英語を学ぶモチベーションにもなるこの補助金は、大変ありがたいことだと思っています。英語検定は毎日の学習の成果が目に見える形で分かります。生徒のみなさんには機会をいかして積極的に挑戦してもらいたいと思っています。





芦安中学校だより

第 5 号

校長 大石 浩雄

2025. 6. 17

☆開山祭に向けての合唱練習が 始まりました

6月に入り朝の時間を使い、登山トレーニングと並行して「北岳の歌」「雪山賛歌」2曲の練習を始めました。これは6月28日(土)に予定されている開山祭に参加するための準備です。中学生だけで練習をする時と小中合同で練習をする時がありますが、小学生が中学生はすごいなとあこがれるような歌声を響かせることができるように頑張っています。



芦安小中学校では、市の要請を受け、毎年6月下旬に行われる開山祭に参加しています。開催地の広河原は、芦安地区に含まれ、南アルプスユネスコエコパークの核心地域、北岳等南アルプス北部登山の拠点でもあります。登山シーズンの開幕を祝い、南アルプス北部を目指す登山者の安全を祈念する等の意味がある開山祭に招かれ、歌声を披露するということは、地元の学校として地域に貢献する大切な機会でもあります。



本校には他の学校と違う特徴的な活動がいくつもあります。こうした活動の意義をしっかりと理解するとともに、そこに誇りを持って参加できる生徒の育成に努めていきたいと思っています。

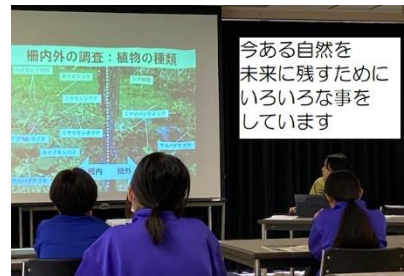
☆登山に向けた学習会②と③

6月3日(火)の4校時、登山に向けた2回目の学習会として自分が撮影した写真に自分の言葉(詩)をつけることに取り組みました。自分が撮った写真の中から気に入ったものを選び、それに自分なりの言葉をつけようと頑張っていました。



また、6月10日(火)の6校時には、芦安支所にある環境省自然保護事務所の方々3名に講師としておい

でいただき、仙丈ヶ岳周辺の自然保護等について教えていただきました。おそらく自然保護官という仕事に興味をもったでしょう、授業後、積極的に質問をする生徒もいました。



前号の学校だよりの中でも触れましたが、芦安中学校の全校登山の目的は、困難を乗り越える経験をするだけではありません。登山を通して自然の美しさや大切さ、仲間と行動を共にすることすばらしさを感じることも大切にしています。

自分の感じたことを写真に記録して言葉や詩をつけるという何だか恥ずかしいような照れ臭いような気持ちになるかもしれませんが、自分が「いいな」「素晴らしいな」「誰かに伝えたいな」と思った瞬間の、その気持ちを素直に表現してくれることを楽しみにしています。

☆県学力把握調査を 2年生で実施しました

6月5日(木)の午前中に山梨県の学力把握調査を実施しました。この調査は県内の中学2年生を対象にしたもので、一人一台端末を使ったCBT方式で行いました。最近はこの方式のテストや調査が増えてきております。生徒達は端末の使用にも慣れており、特に戸惑うことなく調査問題に取り組んでいました。

今後しばらくすると各個人の調査結果が個票の形で配布されます。これまでも伝えてきていますが、返却された自身の結果をど



のように生かすかがとても大切です。個票が戻ってきたら本人と保護者と一緒に何ができて何ができないのか、何が原因でどう改善すればよいのかを確認してみてください。次につながる考え方をすることで将来を切りひらく力につながると思います。

☆成長には愛情が必要

農園の中で4月末に植えたサツマイモが少しずつ成長しています。ただ、放置しておい



て、ここまで成長してきたわけではありません。実際には水やり、草取りなどの世話をしてきたからです。動物でも植物でも生き物を育てるということは簡単なことではありません。いつもその生き物のことを気かけ、小さな変化に気づき、適切な対応をしなければいけません。そうした手間をかけるからこそ「農家の方が愛情をかけて育てた作物」という表現をするのでしょう。

自然体験学習の一環

として農園での栽培をしています。生徒にはこの学習を通じて、サツマイモが収穫できた、



できなかっただけでなく、生き物を育てる時の愛情の大切さや大変さといったことを経験してもらいたと思います。その経験がきっと生徒の人生と心を豊かにしてくれるはずです。

上の文書を書いた1週間後、畑がサルにあらされました・・・残念、修復と再対策をしましたがどこまで回復するのか・・・ただ、「どうせサルにやられるのなら農園なんかやめればいい」と考えるのは、どうせ勉強してもできないからやらないという子供と同じようで・・・と思ってしまいます

☆授業参観と地域ふれあい道徳・教育を語る会

6月11日(水)の5校時に道徳の公開授業参観、その後、小中合同の教育を語る会が行われました。授業参観は、全校道徳という形で「考え方や立場の違いを尊重し合う」ということを主題に行いました。学年が異なるメンバーがいるペアやグループで状況に合わせたやり取りを体験しながら学習していきました。子ども大人に関係なく、自分を大切にしながら相手も尊重するということはなかなか難しいことです。できないこともたくさんあると思います。ただ、できていないことに気づき、そこを改めようとすれば少しずつできるようになるでしょう。今回の授業が「気づき」を



与え、「きっかけ」になるのではないかと感じました。

教育を語る会では、学校応援団コーディネーターの名取



大介さんを講師に迎え、「これまでの芦安からこれからの芦安へ」というテーマでワークショップを行いました。生徒・保護者・地域の方が一緒になり、言葉を交わしながら芦安について考えることができました。その中で多くの方から芦安のいいところとして「豊かな自然」というキーワードが出されていました。芦安にある学校として、芦安が持ついいところをより一層教育の中にかせる努力をしていきたいと思いました。

☆防災訓練を実施しました

6月16日(月)の午前中、土砂災害・洪水災害を想定した避難訓練を行いました。今回の避難訓練では、事前指導として芦安地区の災害の危険性や土砂災害の動画を視聴するなどして意識を高められるようにしました。当日の避難では、整然と3階音楽室への垂直避難を行うことができました。

芦安の良いところは自然が豊かなところです。それは裏を返せば自然災害が身近なところにあるとも言えます。だからこそ災害に対する備えを日頃から積み重ね、豊かな自然の中で安全に生活できるようにすることが大切だと感じています。



☆あいさつをする・感謝を伝える

「さわやかなあいさつをしてもらえるとどんな気持ちになりますか?」「ありがとうと言ってもらえるとどんな気持ちになりますか?」多くの人はいい気持ちになると答えるでしょう。いい気持ちにしてくれた人には良い印象を持つものです。自分に対して良い印象を持ってくれる人は、何かの時に力になってくれるかもしれません。損得で考えるわけではありませんが、自分を助けてくれるかもしれない人はたくさんいた方がいいでしょう。

さわやかにあいさつをする、感謝を伝える、それほど難しいことではありません。だからこそ社会に出るまでにきちんと身につけておきたい習慣だと思います。普段している自分のあいさつや感謝に自分で点数をつけてみましょう。

